

ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和4年8月30日発行

(本年度6号)



教育は人なり

率先垂範

師弟同行

啐啄同時

2学期も張り切って！！

今年の夏は、例年にも増して暑さが厳しいように感じました。新型コロナウイルスは過去最大の感染状況になった第7波。本校でも多くの感染者が確認されました。新型コロナウイルス感染予防と熱中症対策をしっかりと意識していきます。

39日間だった今年夏休み。子ども達はどんな風に過ごしたのでしょうか。昨年と違い、行動制限無しで、いろいろと楽しい思い出ができたのでしょうか。今日は第2学期の始業式を迎え、夏休みの間はひっそりとしていた校舎も久しぶりに子ども達の賑やかな声が聞こえ、学校らしい雰囲気になりました。2学期は1年のうちで一番長い学期となります。運動会やマラソン大会など大きな行事も控えています。今はただ、予定通りに行事が実施でき子ども達にとって楽しい学校生活になることを願っています。

阪神甲子園球場では、「全国高等学校野球選手権大会」が39年ぶりにたくさんの観客が見守る中で開催されました。試合中は観客の歓声や各校の応援団やブラスバンド演奏などがあり高校生のはつらつとしたプレーがたくさん見られました。コロナに感染した学校の日程を後へ調整するなどの配慮もありコロナ過であっても選手の晴れ舞台を実現させる工夫がされていました。また、注目選手の活躍もさることながら「逆転」や「サヨナラ」など緊迫した好ゲームもあり出場校のすばらしいチームワークに感心させられました。

テレビで観戦をしていると試合が終わり両校の選手がホームベースを挟んで整列したところで球審が選手達に声を掛けている場面がありましたが、何を言っておられるのかは分かりませんでした。他の試合でも整列時やプレーの合間に選手に何やら話をされているように見えました。調べてみると、一生懸命に頑張る選手に様々な言葉掛をする審判が注目されているようでした。「全員で盛り上げていこう！」「しっかり水分補給をして…」「大丈夫か？慌てずに…」「さあ切り替えて、チャンスを作るぞ！」「全員でしっかり…、ベンチもみんなで…」「ヨッシャ〜行けっ！」挙げればきりがありませんが、審判の方々も、試合中ずっと両校の選手を大きな声で励ましておられるのでした。大会8日目に調整されたコロナ感染があった学校同士の試合ではゲームセットを告げる前に「この試合ができたことは奇跡です。」とありました。大差で勝敗が決した試合後の整列では「大丈夫、上を向いて。甲子園で試合ができたことは誇りや。ここから胸を張って…終わります。」と自信を持たせました。代打の選手を保護者がしっかり見られるように時間を稼いだり大会前に大切な仲間を亡くした学校にそっと試合球を渡したり…。試合の最中も、その後も選手のことを思い、選手ファーストを忘れない審判員の姿から全力を尽くす「子ども」にしっかりと寄り添う「大人」の心を感じました。これは、身近な目の前の子ども達に日々接するときにも忘れてはならないことです。子どもには苦手な事や嫌いな事、上手くない事たくさんあります。失敗や悔しい思いもありますが、それでも頑張っています。でもそこを乗り越えずして成長はありません。そんな時、そばに居てしっかり励まし元気づけるてれる大人の存在が、追い風となり子ども達の背中を押すのだと思います。

2学期が始まりましたが、コロナ禍の影響で予定している行事も中止延期を余儀なくされる可能性があります。できる限り予定している行事は実施したく、間際まで待つ判断することもあります。ご理解をお願いいたします。2学期も保護者地域の皆様には変わらぬご支援をいただきますようお願い申し上げます。

波多野 暢 教職員一同

